様式 C-7-2

自己評価報告書

平成 23 年　4 月 28 日現在

機関番号：１４４０１
研究種目：基盤研究（B）
研究期間：2008～2011
課題番号：２０３３００４９
研究課題名（和文）　人事制度と従業員の認識および職務行動の変化に関する人事経済学的課題の検証
研究課題名（英文）　Employees' Comprehension of HRM Systems and Their Performance

研究代表者
松繁　寿和　（Matsushige　Hisakazu）
大阪大学・大学院国際公共政策研究科・教授
研究者番号：５０２１９４２４

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：経済学・応用経済学
キーワード：人事経済学、人事マイクロデータ、人事管理、評価制度、認識と行動

１．研究計画の概要

本研究では、人事制度の変更や実際に行われる評価、報酬、昇進等の処遇結果が従業員の人事および処遇体系に関する認識や、その認識に基づいた行動にどのような変化をもたらすかを人事経済学の視点から検証する。特に、4 年間を通じて人事マイクロデータと従業員アンケートをマッチングさせた突合パネルデータを作り上げ、それを分析することを中核的な作業として進める。したがって、単に賃金関数を推定したり、満足度を因子分析するだけでなく、従業員属性や処遇等のデータを使い従業員の行動を分析することで、これまで行われていない研究を進める。

２．研究の進捗状況

人事マイクロデータと従業員アンケートをマッチングさせた突合データの作成は、企業の協力を得て順調に進んでおり、23 年度もすでに計画が確定し 6 月に実施される。今年度末には、4 年間のパネルデータが完成する予定である。

データがすでに入手されているものは、論文として完成した。たとえば、「評価・賃金・仕事が労働意欲に与える影響－人事マイクロデータとアンケート調査による分析」（柿沢、梅崎）は、すでに雑誌に掲載されている。また、「技能形成の計量分析―ISOデータと人事マイクロデータを用いて」（井川、中嶋）、「人事制度改定と従業員意識の変化」（井川）なども学会で報告された。

また、「両立支援制度」および「均等待遇」に関する分析もいくつかの研究が進んでいる。特に、“Transitions to full-time work for female workers in Japan”（岸）は、学会でも報告された。また、現在、他の全国調査の個票を入手し、分析が薦められているとともに、先述の企業内パネルデータを用い、女性の処遇と満足度の間のパラドックスを分析する研究も新たに始まった。

３．現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

（理由）

人事マイクロデータと従業員アンケートの突合パネルデータの作成は全く問題がない。また、その結果も企業だけでなく、各管理職にフィードバックできる体制を整えてきた。さらに、技能形成の指標として ISO データを入手するなど、当初は予想しなかったデータの入手も可能となった。また、研究成果としては、現在執筆中のものを入れると 10 本近い論文を作成できた。

４．今後の研究の推進方策

平成 23 年度は、さらにパネルの期間を延ばすことと、今後も継続して調査協力が可能となる体制を整える。

一方、現在進捗中の分析を終了し、これまでに完成した論文等と併せて、研究成果をまとめる。また、過去に入手した企業内マイクロデータも利用し、これまでの研究成果の一般性を検証する作業も進める。

５．　代表的な研究成果
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 24 件）
①井川静江、中嶋哲夫、技能形成の計量分析―ISOデータと人事マイクロデータを用いて、日本労務学会第 40 回全国大会研究報告論集、pp.69-76、2010、査読無
②柿沢寿信、梅崎修、評価・賃金・仕事が労働意欲に与える影響－人事マイクロデータとアンケート調査による分析、日本労働研究雑誌、No.598、pp.67-82、2010、査読有
③平尾智隆、梅崎修、松繁寿和、社会人大学院教育と職業キャリアの関連性－あるビジネススクール卒業生のその後－、日本労務学会誌、第 11 巻 2 号、pp.30-42、2010、査読有
④井川静江、人事制度改定と従業員意識の変化、日本労務学会第 39 回全国大会研究報告論集、295-302、2009、査読無
⑤ Katsuya Takii, Limited Attention, Interaction and the Gradual Adjustment of a Firm's Decisions, Journal of Economic Dynamics and Control, Vol.33, No.2, pp.345-362, 2009, 査読無

〔学会発表〕（計 27 件）
①平尾智隆、梅崎修、松繁寿和、大学院卒の労働需給 - 2000 年代における教育過剰と処遇の変容、社会政策学会、2010 年 10 月 30 日、愛媛大学
②平尾智隆、梅崎修、松繁寿和、大学院卒業生の企業内初期キャリアとその変化－企業アンケート調査の 2 時点間比較、キャリアデザイン学会、2010 年 10 月 23 日、神戸学院大学
③平尾智隆、梅崎修、松繁寿和、企業内処遇に関する大学院学歴価値の過去 10 年の変容、日本教育社会学会、2010 年 9 月 19 日、関西大学
④井川静江、中嶋哲夫、技能形成の計量分析―ISOデータと人事マイクロデータを用いて、日本労務学会、2010 年 7 月 31 日、神戸大学
⑤岸智子、Transitions to full-time work for female workers in Japan、日本経済学会、2009 年 10 月 11 日、専修大学
⑥平尾智隆、社会人大学院がキャリア形成にもたらす効果、キャリアデザイン学会、2008 年 9 月 27 日、京都産業大学

〔図書〕（計 7 件）
① 勇上和史、『労働供給の経済学』（三谷直紀　編著）、　第 6 章「転職」、ミネルヴァ書房、2011 年、印刷中
②Hisakazu Matsushige他編、*Routledge*、*Laggards and Leaders in Labour Market Reform　-Comparing Japan and Australia-*、2009 年、304 ページ
③松繁寿和、『人を活かす企業が伸びる：人事戦略としてのワーク・ライフ・バランス』（佐藤博樹・武石恵美子　編著）、勁草書房、2008 年、pp71-87